



小沢市長も参加し、協働のまちづくりに
ついて意見を交わしました



江刺区

今後のまちづくりを考える

野菜ボランティア実行委員会シンポジウム

大船渡市などの仮設住宅へ野菜などを継続して届けている東日本大震災救援・野菜ボランティア実行委員会（仙道英明委員長）が主催する記念シンポジウムが11月13日、江刺生涯学習センターで開催されました。早稲田大学大学院・北川正恭教授による講演やシンポジウムを通して、これからのまちづくりを考えました。会場に詰め掛けた参加者は、行政に頼らず自ら行動することの大切さや、行政が民間を援助する今回の活動に新たなまちづくりの可能性を見つけていました。

前沢区

共演に胸躍らせ打楽器作成

前沢区内児童が楽器を作成

白鳥小学校と上野原小学校で11月10日と11日、パーカッション奏者の野尻小矢佳さんの演奏会と楽器の製作が行われました。

児童らは野尻さんの演奏を聴いた後、ビニールパイプと布で楽器を作成。12日のコンサートで演奏を披露するとあって、真剣に取り組んでいました。佐々木卓也さん（白鳥小5年）は「簡単な材料で楽器が作れたので驚いた。演奏するのが楽しみ」と意気込みを語っていました。

野尻さんらの指導で、楽器を作成する
白鳥小児童



水沢区

児童に将来の夢プレゼント

「大空からサンタが降りてきた！」

水沢青年会議所（高橋一隆理事長）が主催する職業体験イベント「大空からサンタが降りてきた！」が11月23日、姉体小学校を会場に開催されました。

子どもたちに、警察官や菓子職人など将来になりたい職業を体験させることが目的の同イベント。胆江地域から90人、陸前高田市から80人の小学5、6年生児童が参加し、将来への夢を膨らませました。子どもたちは用意された「ミッション（指令）」を遂行しながら交流を深め、会場には明るい歓声が響いていました。



和菓子づくりの指令に真剣に取り組む参加者たち



人気の詰め放題は混雑もひととき

江刺区

特産りんごの魅力アピール

第2回江刺りんごまつり

岩手江刺農協と同行りんご部会が主催する江刺りんごまつりが11月26日、27日の両日、えさし藤原の郷ロケーションベースを会場に開催されました。

会場には「訳ありりんご詰め放題」などのコーナーが設けられたほか、皮むき大会やりんごの甘酒・ジュースの無料配布などが行われ、大勢の来場者でにぎわいました。水沢区から訪れた佐々木玉緒さん（48）は「去年も来ましたが、今年も詰め放題で満足できました。来年もまた来たいです」と話していました。

江刺区

愛をつなげる支援の輪を結成

市ボランティア連絡協議会結成記念事業



東日本大震災復興支援活動をテーマとして行われたシンポジウム

市ボランティア連絡協議会（菅野好平会長）の結成を記念したシンポジウム「東日本大震災復興支援活動『奥州ボランティアつながり愛』」は11月19日、会員ら約300人が参加し江刺区内のホテルで開かれました。

同協議会は、ボランティア団体の活動活性化と支援の輪の広がりを願い、84団体で設立。シンポジウムでは、会長や大槌町の工場を避難所として開放した千田伏二夫さん（千田精密工業）らが登壇し「仕事を通じてどのように支援するかが課題」「震災で高まったボランティア意識を、今後の支援活動にどう結び付けるか考えるべき」と意見を述べ、参加者らは皆真剣なまなざしで聞き入っていました。

衣川区

住民自治の振興を目指して

地区振興会祭りでまちづくりを語る

衣川地区振興会（佐藤利夫会長）主催による衣川地区振興会祭りが11月13日、同地区センターを会場に開催されました。

地域振興と協働のまちづくりの普及啓発を図ろうと、今年初めて開催された同まつり。協働のまちづくりフォーラムでは、いわて地域支援人財ファンドの村井研二さんが「できることから始め、子どもたちが戻りたくなるまちづくりを、自分たちで進めることが大事」と助言し、参加者らは熱心に聞いていました。

初めて開催されたフォーラムに多くの住民が参加



園児が歌う「土をむいて歩こう」を聞いて、笑顔の出席者たち

胆沢区

共に歩んだ半世紀をお祝い

第1回胆沢区金婚を祝う会

胆沢区で初となる金婚を祝う会は11月22日、過去3年間に金婚を迎えた夫婦71組が集まり、焼石クアパークひめかゆで盛大に開催されました。

市社会福祉協議会の高橋光夫会長が「今日はいいい夫婦の日。ぜひ50年間ありがとうと声を掛けてください」とあいさつ。記念品贈呈後には、みんなで祝謡をあげて祝いました。愛宕保育園の園児らにより歌や踊りが披露されると、会場は和やかな雰囲気。参加者らは、お互いへの感謝の気持ちを新たにしていました。